

CURES

NEWSLETTER

地域経済
ニュースレター

1996.11.30 No.40

巻頭言

日本中に記念碑を

碓山 洋

なにか計画をたてて実行しようとするとき、まわりの条件が変わったり、計画に軽視できない問題点がありそうなことがわかったりすれば、私たちはその計画を中止したり、変更したりする。すくなくとも、とりあえず計画の実行を先送りして、計画を再検討する。そうしないとあとで取り返しのつかないことになるかもしれないということを、私たちは子どものころから学んできている。こんなこと

は当たり前のことだと思うのだが、どんなに状況が変わっても、どんな問題点が明らかになっても、強引としかいいようのないやり方で公共事業が進められることが、日本ではあまりにも多すぎる。

どうして日本の行政は、いちど決めた計画を変更したり中止したりすることを、かたくなに拒もうとするのだろうか？ 行政の内部にどのような事情があるのか私たち市民には

- 巻頭言.....碓山 洋
- CURES Report
「人間・自然・経済の調和的発展可能な国際地域協力モデルの構築を目指して
—私の『北東アジア経済論』という講義の趣旨と論点への解題—」龍 世 祥
- CURES Salon
「BBCCの実験を見ての感想—B-1SDNへの期待—」白 石 弘 幸
- Topic
「魅力ある研究計画とは
—文部省科学研究費補助金に関する説明会に出席して—」松 田 弘 子
- 地域経済文献情報
- NEWS
「国際シンポジウム『グローバル化と地域経済』を開催」

金沢大学経済学部

知りようもないが、「行政の事情」で大切な環境が壊されるのを、黙って見ているわけにはいかない。

このところ、「薬害エイズ問題の厚生省」「住専問題の大蔵省」「環境破壊の建設省」への批判がめだって強くなっているが、環境破壊という点では、大規模な干拓事業をはじめ各地ですすめられる農水省関連の事業計画の是非がとりわけ厳しく問われなければならない。本来、それ自体が環境を構成し、環境に直接はたらきかけ、環境の影響を直接に受ける農業・林業・水産業こそが、環境保全の先頭にたつべき産業だからである。

ヨーロッパでは、1980年代には農業生産がピークに達し、生産物が市場に対して過剰になりつつあることが認識されただけでなく、「過剰生産は環境を破壊する」という考え方が確立された。農業が大きな環境破壊をもたらしてきたことが、深刻に反省されたのである。Set-aside（一種の減反政策）では、その一環として、農家に補助金を支給して農地を森林化していつている。また、熱帯雨林とならんで生物の多様性・生産性の点で重要な湿地環境を再生する事業も、各地で進められている。

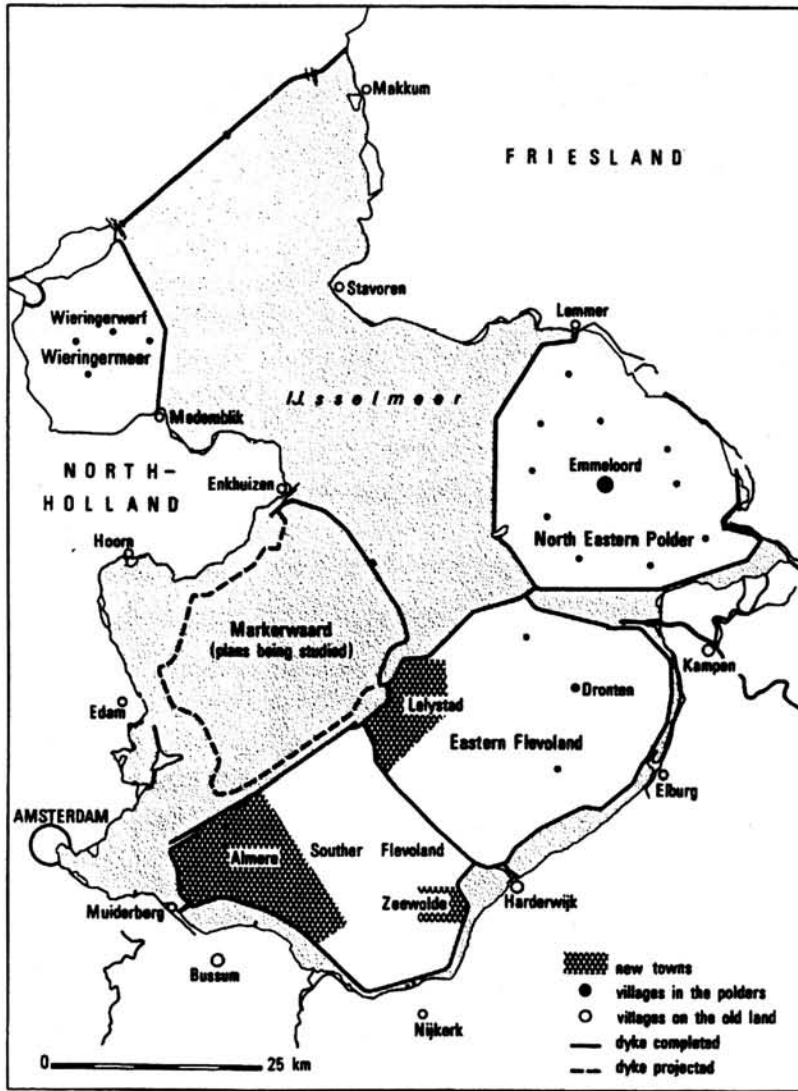
「干拓の先進国」オランダでも、湿地環境再生事業が進められている。そのひとつ、ピースボス国立公園では、1972年に干拓が完了した地域で、堤防を撤去して湿地を再生し、湿地を中心とした9千ヘクタールの自然公園を整備しようとしている。19世紀以前の古い干拓地は、技術史上重要な意味をもつので保

存し、最近つくられた干拓地を再湿地化している。

また、アイセル湖のフレフォランド州の干拓地は、当初はすべて農地にする予定だったが、実際につくられた農地は北東部で80%、南西部では45%であった。残りの土地は、一部が都市として整備されたほか、レクリエーションの利用が可能な森林や湿原、立入禁止の自然保護区域となっている。オランダでは1960年代はじめには週休2日制がほぼ確立し、国民が余暇を過ごせる場所を、国内しかも大都市の近くにつくる必要があったことが、ピースボスと共通した、計画の背景となっている。

実は、この10月、湿地再生事業の調査のためにフレフォランド州レリーシュタットにある運輸・公共事業・水利省を訪ねたところ、その2週間前に長崎県から調査団がやってきたということだった。1週間後には鳥根県からも調査に来るといふ。それぞれ、諫早湾干拓、本庄工区干拓（中海）が重要な局面を迎えているところである。おそらく、干拓を進めるための技術やノウハウを、「干拓の先進国」から学ぼうというのであろう。

彼らが学んでかえられたことを願うが、実はオランダは、干拓地で湿地環境の再生を進めているだけでなく、非常に大規模な干拓事業計画を中止した、「計画変更・中止の先進国」でもある。アイセル湖を海から隔てる全長30kmの大堤防はよく知られているが、アイセル湖のまん中にも長さ28kmの堤防がある。高潮対策は大堤防で万全だし、アイセル



アイセル湖の干拓地。点線で囲まれているのが中止されたマーカ干拓予定地。
 (資料：Ministerie van Verkeer en Waterstaat,1987.)

否を判断するようになって
 いる。公聴会のなかで
 代替案が出され、計画が
 変更されることも少なく
 ない。マーカ湖の干拓計
 画は、1980年から84年
 にかけて開かれた一連の
 公聴会の結果、中止され
 ることになった。費用が
 かりすぎること、水質へ
 の影響が懸念されること、
 人口の伸びが頭打ちにな
 ったことがその理由であ
 る。

堤防で仕切られただけ
 で干拓されていないマー
 カ湖は、一見、堤防が完
 成し干拓を待つ諫早湾や
 本庄工区の姿に、よく似
 ている。ちがうのは規模
 が何倍も大きいことだが、
 それは、この事業を中止
 した行政の理性と勇気の
 大きさを示してもいる。
 この堤防を「中止に追い

湖全体がすでに淡水化されている。それでは
 この堤防は何のためにつくられたのかという
 と、堤防の内側（現在のマーカ湖）の半分以上
 を干拓する計画だったのである。

オランダでは、大規模開発に関しては、約
 2年の期間をかけて全国で公聴会を開き、そ
 の議論をうけて政府の諮問委員会が計画の適

込まれた事業の残骸」とみるか、「国民と行
 政の英断の記念碑」とみるかは、見る人の景
 観を読みとる力にかかっている。

日本にもこのような記念碑ができる日を、
 一日も早く迎えたいと思う。日本中をこのよ
 うな記念碑でかざりたいと思う。

(金沢大学経済学部助教授)